

# 顎機能治療学

責任者名：池田 貴之(歯科補綴学 I 専任講師)

学期：前期

対象学年：4年

授業形式等：講義

## ◆担当教員

池田 貴之(歯科補綴学 I 専任講師)

西尾 健介(歯科補綴学 I 助教)

篠崎 貴弘(口腔内科学 専任講師)

松本 邦史(歯科放射線学 准教授)

植田 耕一郎(摂食機能療法学 教授)

阿部 仁子(摂食機能療法学 准教授)

中山 潤利(摂食機能療法学 准教授)

酒井 真悠(摂食機能療法学 助教)

菊入 崇(小児歯科学 教授)

## ◆一般目標 (GIO)

顎関節症や摂食機能障害といった顎機能障害を有する患者に対応するため、各障害に関する基本的知識を修得するとともに、身体・心理社会的側面を考慮した診察、検査、診断および治療方法について理解する。

## ◆到達目標 (SBO s)

第1～15回：顎関節症

- ・顎関節症の概念と疫学的特徴について説明できる。
- ・顎関節症の原因と発症メカニズムについて説明できる。
- ・顎関節症の診察、検査、診断および治療方法について説明できる。
- ・小児の顎関節症について説明できる。

第16～30回：摂食機能療法学

- ・摂食機能障害者と高齢者の社会的背景および歯科的問題を説明できる。
- ・摂食機能障害の基礎疾患について説明できる。
- ・摂食機能障害の検査、診断および対応について説明できる。
- ・フレイルと口腔機能低下症を説明できる。
- ・口腔機能の発達を説明できる。
- ・口腔機能発達不全症を説明できる。
- ・ADL、栄養、認知機能に関わる評価方法を説明できる。
- ・要介護高齢者、有病高齢者に対する口腔ケアについて説明できる。
- ・要介護高齢者、有病高齢者に対する歯科治療時におけるリスク管理を説明できる。

## ◆評価方法

定期試験（60％）と平常試験（40％）にて評価する。平常試験は試験後に解説を行いフィードバックする。

## ◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
高津 匡樹	火曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第 I 講座	takatu.masaki@nihon-u.ac.jp	
西尾 健介	火曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第 I 講座	nishio.kennsuke@nihon-u.ac.jp	
篠崎 貴弘	火曜日 17:00~18:00 口腔診断学講座	shinozaki.takahiro@nihon-u.ac.jp	
松本 邦史	火曜日 17:00~18:00 歯科放射線学講座	matsumoto.kunihito@nihon-u.ac.jp	
菊入 崇	火曜日 17:00~18:00 小児歯科学講座	kikuri.takashi@nihon-u.ac.jp	
植田 耕一郎	火曜日 17:00~18:00 摂食機能療法学講座	ueda.kouichirou@nihon-u.ac.jp	
阿部 仁子	火曜日 17:00~18:00 摂食機能療法学講座	abe.kimiko@nihon-u.ac.jp	
中山 潤利	火曜日 17:00~18:00 摂食機能療法学講座	nakayama.enri@nihon-u.ac.jp	
酒井 真悠	火曜日 17:00~18:00 摂食機能療法学講座	sakai.mayu2@nihon-u.ac.jp	

#### ◆授業の方法

##### 【顎関節症：第 1~15 回】

参考図書と講義資料に基づいて講義を行う。第 14 回に平常試験を行う。

##### 【摂食機能療法学：第 16~30 回】

教科書、参考図書、講義資料に基づいて講義を行う。第 30 回に平常試験を行う。

##### 【実務経験】池田貴行ほか

担当教員はすべて日本大学歯学部在籍し、顎関節症または摂食機能障害の歯科治療に関わる研究と臨床に従事している。それらの経験に基づいた講義を実施することで、より一層の理解を深めることが出来ると考える。

#### ◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
講義資料				
顎関節症・参考書	新編 顎関節症（改	一般社団法人日本顎	永末書店	2018

	訂版)	関節学会編		
顎関節症・参考書	顎関節症診療ハンドブック改訂版	本田和也ほか	メディア株式会社	2018
顎関節症・参考書	TMD YEARBOOK 2019 / 2020 顎関節症の三大症状, その検査・診断・治療をやさしく教えます	古谷野潔ほか	クインテッセンス出版株式会社	2019
摂食機能療法学・教科書	新版 歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学	向井美恵, 山田好秋, 井上誠, 弘中祥司	医歯薬出版株式会社	2016
摂食機能療法学・教科書	よくわかる高齢者歯科学	佐藤裕二, 植田耕一郎, 菊谷武	永末書店	2018
摂食機能療法学・参考書	老年歯科医学	森戸光彦, 山根源之, 櫻井薫, 羽村章, 下山和弘, 柿木保明	医歯薬出版株式会社	2015

#### ◆DP・CP

コンピテンス 4：歯科医学および関連領域の知識

コンピテンシー：4-2、4-3、4-4、4-5、4-6、4-7

対応するディプロマ・ポリシー：DP4

#### ◆準備学習(予習・復習)

学習項目に関して事前に教科書や講義資料を読んで予習をして臨むこと。また、講義後は、講義資料やノートをもとめて復習すること。なお、講義資料は事前にカレンダー上に掲示するので、予習・復習の参考とすること。

#### ◆準備学習時間

予習と復習をそれぞれ授業時間（50分）相当を充てて行うこと。

#### ◆全学年を通しての関連教科

小児の歯科診療の基礎（3年後期）

歯科放射線学各論（4年前期）

顎機能分析学、顎機能分析演習（4年後期）

摂食機能療法学・高齢者歯科学演習（6年前期）

## ◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		4.4	1	1. 顎関節症の概念と疫学的特徴 1)顎関節症の概念 2)顎関節症の疫学的特徴	・顎関節症の主徴候と病態を列挙できる。 ・有病率とその年齢分布および性差について説明できる。	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患
2		4.4	2	2. 顎関節症の原因と発症メカニズム 1)顎関節症の原因 2)顎関節症の発症メカニズム	・顎関節症の寄与因子を行動因子, 身体的因子, 心理社会的因子に分類できる。 ・顎関節症は複数の寄与因子が相互関与する多因子性疾患であることを説明できる。 ・種々の因子が背景因子, 誘発因子, 永続化因子として相互作用することで発症, 進行することを説明できる。	西尾 健介	E-2-4)-(7)顎関節疾患
3		4.11	1	3. 顎関節症の診察と検査① 1)医療面接 2)口腔外検査 3)口腔内検査	・顎関節症患者の医療面接において, 病歴や生活習慣聴取の重要性について説明できる。 ・顎関節症における口腔外検査を列挙することができる。 ・顎関節症において硬組織, 軟組織, 咬合などの口腔内検査について説明できる。	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患
4		4.11	2	3. 顎関節症の診察と検査② 4)筋の触診と筋痛 5)咀嚼筋の疼痛に関連する障害	・顎および頭頸部筋の触診による圧痛検査について説明できる。 ・筋痛の種類と発現過程を理解し, 筋痛に関連して生じる障害について説明できる。	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患
5		4.18	1	【対面】 3. 顎関節症の診察と検査③ 6)顎関節部の触診と疼痛 7)下顎運動検査	・顎関節部を触診することで圧痛, 関節雑音, 下顎頭の可動性を検査することを説明できる。 ・顎関節部に生じる疼痛について説明できる。 ・関節雑音と開口障害を病態と関連付けて説明できる。	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患

6		4.18	2	3. 顎関節症の診察と検査④ 8)精神心理学的検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分障害, 不安障害, 身体表現性障害など, 顎関節症に関連する精神心理学的疾患を説明できる。</li> <li>・精神心理学的障害と顎関節症との関係および鑑別を説明できる。</li> </ul>	篠崎 貴弘	E-2-4)-(7)顎関節疾患
7		4.25	1	3. 顎関節症の診察と検査⑤ 9)画像検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パノラマエックス線検査 (パノラマ4分割を含む), CT 検査, MRI 検査など, 顎関節症の診断に必要な画像検査を説明できる。</li> </ul>	松本 邦史	E-2-4)-(7)顎関節疾患 E-1-2) 画像検査を用いた診断
8		4.25	2	4. 顎関節症の診断① 1)鑑別診断 2)病因診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顎関節の発育異常, 顎関節の外傷, 顎関節の炎症など, 顎関節症と鑑別が必要な疾患を説明できる。</li> <li>・病因を推測することの意義について説明できる。</li> </ul>	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患
9		5.9	1	4. 顎関節症の診断② 3)病態診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顎関節症を咀嚼筋痛障害, 顎関節痛障害, 顎関節円板障害, 変形性関節症などに分類し, その診断方法を身につけることができる。</li> </ul>	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患
10		5.9	2	5. 顎関節症の治療① 1)ホームケア 2)薬物療法 3)理学療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の改善, 不良習癖の解消, ストレスの軽減などのホームケアの重要性とその方策を説明できる。</li> <li>・家庭で行う理学療法を説明することができる。</li> <li>・顎関節症の治療に用いられる薬物とその効果について説明できる。</li> <li>・理学療法について説明できる。</li> </ul>	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患
11		5.16	1	5. 顎関節症の治療② 4)スプリント療法 5)咬合治療 6)外科療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプリントの種類とその適用症例を説明できる。</li> <li>・スタビライゼーションスプリントを用いたスプリント療法について説明することができる。</li> <li>・咬合治療と外科療法のリスクについて理解し, その適応や治療の進め方について説明できる。</li> </ul>	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患

12	5.16	2	5. 顎関節症の治療③ 7)顎関節症の自然経過 8)治療法の選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顎関節症の自然経過について説明できる。</li> <li>・顎関節症の治療法を列挙することができる。</li> <li>・病態，臨床症状，病因だけではなく，自然治癒への期待やリスクを考慮した治療法の選択を身につけることができる。</li> </ul>	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患
13	5.23	1	6. 小児期の顎関節症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児期に見られる顎関節疾患の特徴について説明できる。</li> <li>・小児期に見られる顎関節疾患の治療の考え方について説明できる。</li> </ul>	菊入 崇	E-2-4)-(7)顎関節疾患
14	5.27	2	平常試験 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1～13 回の講義内容に対する理解度を確認し，習熟度の低い箇所の理解度を深めることができる。</li> </ul>	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患
15	5.30	1	平常試験 1 の解説とまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1～13 回の講義内容に対する理解度を確認し，習熟度の低い箇所の理解度を深めることができる。</li> </ul>	池田 貴之	E-2-4)-(7)顎関節疾患
16	5.30	2	1. リハビリテーション医学・高齢者歯科学総論 1) リハビリテーション医学の理念 2) 高齢者歯科医療の現場 3) 超高齢社会における歯科医療のあり方 (教 1) pp.2-8, 196-209 (教 2) pp.2-26, 27-47, 180-190	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション医学における障害の構造について理解する。</li> <li>・リハビリテーション医学の理念を理解する。</li> <li>・リハビリテーションに関わる職種，職能，多職種協働を知る。</li> <li>・超高齢社会における歯科医師の役割について理解する。</li> </ul>	植田 耕一郎	B-2-2)保健・医療・福祉・介護の制度 E-5-1)高齢者の歯科治療
17	6.6	1	2. 摂食嚥下の生理学 1) 摂食に関わる大脳皮質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行期（認知期）における摂食行為の多様性について学ぶ。</li> <li>・咀嚼，嚥下が起る生理学的なメカニズムを知る。</li> </ul>	中山 洵利	E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 E-5-1)高齢者

				<p>2) 咀嚼, 嚥下のメカニズム</p> <p>3) 誤嚥の発症機転 (教1) pp.9-36 (教2) pp.183-186</p> <p>3. 発声と構音 (教2) pp.212-223</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咀嚼, 嚥下が起る生理学的なメカニズムを知る。</li> <li>・咀嚼, 嚥下器官の神経学的正常と異常, 加齢について学ぶ。</li> <li>・発声と構音機能の解剖と生理を知る。</li> <li>・構音障害の診査診断と対応を知る。</li> </ul>		の歯科治療
18	6.6	2	<p>4. 摂食機能療法に関わる評価方法</p> <p>1) 栄養アセスメント</p> <p>2) ADL (教1) pp.150-151, 155, 193 (教2) pp.81-86</p> <p>5. サルコペニア</p> <p>6. 廃用症候群 (教2) pp.140-141</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養状態のアセスメント方法について学ぶ。</li> <li>・ADLに関わる評価方法を学ぶ。</li> <li>・サルコペニア, 廃用症候群の概念を理解する。</li> </ul>	中山 洵利	E-5-1) 高齢者の歯科治療	
19	6.13	1	<p>7. 口腔機能の発達</p> <p>1) 乳幼児期の口腔機能の発達</p> <p>2) 発達期の摂食機能障害への対応 (参1) pp.14-17</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の摂食嚥下機能の獲得について学ぶ。</li> <li>・発達期の摂食嚥下リハビリテーションについて学ぶ。</li> </ul>	阿部 仁子	E-5-2)-⑥発達期の摂食嚥下障害	
20	6.13	2	<p>8. 口腔機能発達不全症 (参1) pp.14-17</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔機能発達不全症について理解する。</li> </ul>	阿部 仁子	E-5-2)-⑥発達期の摂食嚥下障害	
21	6.20	1	<p>9. 成人期の摂食嚥下障害に関わる全身疾患 1</p> <p>1) 摂食嚥下機能</p> <p>2) 脳血管障害 (教1) pp.9-30, p.34-52 (教2) pp.72-74, 128-132</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床的摂食嚥下機能を理解する。</li> <li>・脳血管障害の病態を知る。</li> </ul>	植田 耕一郎	E-5-1) 高齢者の歯科治療	

22	6.20	2	<p>1 0. 成人期の摂食嚥下障害に関わる全身疾患 2</p> <p>1) 認知症</p> <p>2) 神経・筋疾患</p> <p>3) その他の疾患 (教1) pp.58-65 (教2) pp.133-144</p>	<p>・パーキンソン病, 認知症等の病態を知る。</p> <p>・異常疾患に特有な摂食機能障害の臨床的所見を知る。</p>	植田 耕一郎	E-5-1) 高齢者の歯科治療
23	6.27	1	<p>1 1. 摂食機能障害の確定診断</p> <p>1) 嚥下造影検査 (VF)</p> <p>2) 嚥下内視鏡検査 (VE) (教1) pp.85-86 (教2) pp.192-193</p>	<p>・嚥下造影検査の目的と適応について理解する。</p> <p>・嚥下造影検査の利点、欠点について理解する。</p> <p>・嚥下造影検査の診断方法を学ぶ。</p> <p>・嚥下内視鏡検査の目的と適応について理解する。</p> <p>・嚥下内視鏡検査の利点、欠点について理解する。</p> <p>・嚥下内視鏡検査の診断方法を学ぶ。</p>	酒井 真悠	E-5-1) 高齢者の歯科治療
24	6.27	2	<p>1 2. 治療的アプローチ</p> <p>1) 間接訓練① (教1) pp.90-111 (教2) pp.195-196</p>	<p>・治療的アプローチである間接訓練の考え方を理解する。</p> <p>・間接訓練の目的と手技を学ぶ。</p>	酒井 真悠	E-5-2) 障害者の歯科治療
25	7.4	1	<p>1 3. フレイルとオーラルフレイル</p> <p>1 4. 口腔機能低下症 (教2) pp.6-8, pp.76-77</p>	<p>・フレイルとオーラルフレイルの概念と歯科的対応を知る。</p> <p>・口腔機能低下症の概念と歯科的対応を知る。</p>	中山 洵利	E-5-1) 高齢者の歯科治療
26	7.4	2	<p>1 5. リハビリテーションの概念と摂食嚥下スクリーニング検査</p> <p>1) 反復唾液嚥下テスト</p> <p>2) 改訂水飲みテスト</p>	<p>・摂食嚥下スクリーニング検査について理解する。</p>	中山 洵利	E-5-1) 高齢者の歯科治療



				ト 3) フードテスト 4) 咳テスト 5) 頸部聴診法 (教2) pp.191-192			
27		7.11	1	16. 治療的アプローチ 1) 間接訓練② (教1) pp.90-111 (教2) pp.195-196	・治療的アプローチである間接訓練の考え方を理解する。 ・間接訓練の目的と手技を学ぶ。	酒井 真悠	E-5-1) 高齢者の歯科治療領域の機能障害
28		7.11	2	17. 治療的アプローチと代償的アプローチ 1) 直接訓練 2) 舌接触補助床(PAP) 3) 軟口蓋挙上装置(PLP) (教1) pp.84 (教2) pp.195-196 (参1) pp.245-246	・治療的アプローチである直接訓練の考え方を理解する。 ・代償的アプローチである PAP, PLP の目的と適応を学ぶ。	酒井 真悠	E-5-1) 高齢者の歯科治療領域の機能障害
29		7.18	1	18. 要介護高齢者・有病高齢者に対する口腔ケア 1) 口腔ケアの概念 2) 器質的口腔ケアと機能的口腔ケア 3) 口腔ケアに用いる器具・薬剤 4) 口腔ケアの手技 13. 周術期口腔機能管理 1) 誤嚥生肺炎 2) 人工呼吸器関連肺炎	・要介護高齢者、有病高齢者への対応方法を説明できる。 ・口腔ケアの概念を述べることができる。 ・口腔ケアで用いる器具、薬剤を説明できる。 ・口腔ケアの手技と注意点を説明できる。 ・周術期口腔機能管理について説明できる。	阿部 仁子	E-5-1) 高齢者の歯科治療
30		7.22	2	平常試験2・解説	・第16～29回の講義内容における理解度を確認し、習熟度の低い箇所の理解度を深めることができる。	植田 耕一郎 阿部 仁子 中山 洵利	E-5-1) 高齢者の歯科治療

						酒井 真悠	
--	--	--	--	--	--	-------	--



## 担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名
顎関節症	1255	篠崎 貴弘
	1307	池田 貴之
	2839	西尾 健介
	3280	松本 邦史
摂食機能療法学	1333	植田 耕一郎
	1872	阿部 仁子
	2157	中山 潤利
	3563	酒井 真悠

